

ダイコン キスジノミハムシについて



図1 キスジノミハムシ成虫



図2 成虫による地上部の食害痕



図3 幼虫による地下部の食害痕

1 生態

キスジノミハムシはコウチュウ目の昆虫で、アブラナ科のみに寄生する。成虫は体長約2mmで体色は黒色で左右の上翅に黄色縦長の斑紋がある(図1)。後脚がよく発達しており、ノミのように鋭く跳ねる。成虫は、葉を食害し、1mm以下の円形ゴマ状の痕を残す(図2)。

成虫の発生は年3~5回、越冬世代成虫の発生は平坦地で3月、高冷地で4月頃より見られ、成虫の寿命は1~4か月と長い。越冬は土壌表面付近、雑草の株元、作物残渣等に成虫態で行う。越冬した成虫は産卵までに相当量の餌を食べないと産卵できず、産卵開始までの日数及び産卵期間は個体差がある。産卵は、昼夜とも行われ、ダイコンの根に近い土壌表面に長めの白い卵を産み付ける。生涯産卵数は平均で150~200個であるが、多い個体では600個以上産むこともある。産下された卵は、およそ3~5日で孵化する。幼虫はアブラナ科植物の根部を食害し(図3)、その痕は網目状に残り、いわゆる「なめり」状になる。激しく食害されると、奇形となり肥大が抑制される。根部の食痕がわずかであっても商品価値を低下させる。幼虫期間は10~20日で、3齢を経て、地表面近くに移動して蛹になる。蛹期間は3~15日である。圃場にダイコン等の作物がない場合は、周囲のナズナやキレハイヌガラシ等のアブラナ科雑草に寄生する。

2 発生状況

成虫の寿命が1～4か月と長く、世代が混在することから発生消長は不明瞭になる。高冷地の夏ダイコン栽培では6～7月播種の作型で被害が大きい。

高温乾燥が続くと発生が多くなる。暖冬の場合、越冬成虫の生存率が高くなり、翌春の発生量は多くなる。

3 防除対策

(1) 薬剤による防除

播種時に粒剤処理を行う。また、発芽後に7日間隔で散布剤によるローテーション防除を行う。

(2) 除草の徹底

圃場周囲のアブラナ科雑草の除草を行う。

(3) 物理的防除等

シルバーマルチの設置により被害を軽減できる。また、エンバクのすき込みが被害軽減に有効との報告がある。